

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 9号 (NO17)

2011年9月10日 (土) 発行

【農暦】この夏も、赤いトマトから元気を貰った。

○最近の気候はおかしい。毎回同じ様な事を書いているが、台風12号は四国に上陸し日本海に抜けていった。台風の進路やエネルギーは上空の偏西風や海水温度などが影響するそうだ。気候の変調で常態化している豪雨も多いが、今回の台風がもたらした雨は豪雨を何倍もした大変なものである様だ。和歌山、奈良、三重などでは土砂崩れでダム湖？がいくつも出来ていると云う。被害も記録的なものになっている。やはりおかしい。海水温が台風のエネルギーを大きくしていると聞くと、更に海水温が上がると風速80メートルもの台風になると云う。恐ろしい事になる。原発事故の収束は最優先である事は当然のことであるが、海水温の上昇が温暖化による現象なら温暖化の取り組みも忘れてはならない。温暖化の話題は消えたかの様に聞こえてこない。復旧復興を進める中に温暖化の視点を忘れてはならないと思う。気候の変調を見たとき可なり厳しいところまで来てしまっているようで怖い。更に大きい温暖化による人災？に地球規模で見舞われることになりかねない。その予兆と思われる事象が多い。過去に同じ様な大きな災害があったと云うが、北極圏の氷は減り白クマの生息を脅かしているのである。

○^{どじょう}泥鰌内閣がスタートして目先の論議が変わっても中身も課題も変わっていない事を忘れてはいけない。財政もそうだが原発も温暖化も先送りは許されない。豊かさのツケは危険を含めて払わなくてはならない。今の社会は目先の利得ばかりが目立ち大局からの視点も行動も見えて来ない。仏教では末法の時代というが愚かさへの怒りを超えて切なさや寂しさになる心境である。政局絡みの記事でヒットラー(独裁者)待望論が生まれる社会状況にあると指摘するものがあつたが、利得主義？とエキセントリックな世相を考えると怖いものがある。賢くありたいものである。また横道が過ぎてしまった。



<イタリアントマト> 撮影は6日

トマトは夏野菜の王様と思っている。除草も優先して、今年も赤いトマトにエネルギーを頂いている。ミニ農家を目指す証に少し出荷もした。

○ギックリ腰?で1ヶ月弱を休んでしまい、荒れ放題になった畑を何とか自力で復活させようと頑張っている。畑の景色は少しだけ畑に見える様になって来ている。だが、私の農的生活もそれを取り巻く農業も、その中身も課題も悪くなくても良くなっているとは言えない。気候も政治も、私もシンクロしている様で重い気分になる。上衣から下着までずぶ濡れに汗をかきながらの農作業が楽しみであったが、最近、経年劣化?のなまった身体が直ぐに悲鳴をあげる。楽しみは小さくなった。マイペースを作ることで楽しみの農作業したいと思っている。また体力不足という課題が1つ増えてしまっただけの事の様だ。生涯現役は意外とハードルが高いのかもしれない。この夏も、赤いトマトから元気を貰った。身体にもいっぱいエネルギーを頂いた。ここ数日、朝晩が凌ぎ易くなって来た。トマトの時季が過ぎているのを実感する。トマトも最後の収穫になりそうである。少しだけ寂しい。

【楽農】ひたすら草取り作業で

<ハウス> ; 草取りを数回繰り返している。荒れてしまったツケは大きい。

トマトの収穫はほとんど望めない。

<畑A> ; イタリアントマトなど草取りを優先、収穫し少しだけ直売所へ数回出荷
連続し草取り畑の姿に少しだけ戻す。

*水戸自然農で貰った日本種のハウレン草の種をまいた(播種7日)。

<畑B> ; ひたすら草取りしてヤーコン、黒豆、小豆、大納言を確保。里芋は草取りの
効果もあって大きく成長。薩摩芋が黒豆1畝を浸食、蔓返しをする。

*トラクターで空きスペース除草の耕起。草がロータリーからみ中断。

草払い機で除草など継続し畑AB共畑に見える??状況にした。

*ギックリ腰で柏滞在が多く柏で白菜、秋とりキュウリの育苗(播種15日)

*鈴虫を飼育?しボランティア活動している人に大きくなり過ぎた多量の茄子を鈴虫の餌にと届け喜ばれた。

【楽市】イベント交流・直売など

○Kさんの那須の畑の見学(8月19-20日)

・グリーンジムメンバーで見学に行く。

Kさんの那須の家のそばにある畑(写真右)には、いろいろな野菜が栽培されていた。収穫したばかりの新鮮野菜を使ったKさんの料理はなかなかのもので美味しく頂いた。

*芦野湯の薬湯に案内して貰う。ギック



<Kさんの那須の畑>雨が多く大変だったと云うがいろいろな野菜が良く出来ていた。

り腰は治癒した？が疲れた身体に良かった。

○グリーンジム本戸倶楽部（8月20日）次回は9月16日

・那須から翌日戻り20日以上放置した荒れた畑の草取りを行う。背丈の高い草を優先して倒した。野菜懇談交流はいつも通り行った。

*草は取り切れない放置のツケは大きい。いきいき市は雨で中止。

○笠吟連の交歓吟詠会に参加（28日）

・日光田母沢御用邸（写真右）、ダイヤ体験館、霧降の滝を回った。楽しい1日であった。



○水戸自然農に参加（5日）

・自分の頭のアエも追えないが当番の初日でもあり参加する。草取り、かぶ、ホウレン草、小松菜などの播種をした。自作の野菜などの惣菜を頂き美味しい昼食を頂いた後に散会した。野菜や種をおみやげに頂き多謝多謝の半日でした。

<田母沢御用邸の板戸の絵>板に直接描かれている。幾種類もの伝統絵画は色褪せていない。特別の雰囲気がある。撮影28日。

【つぶやき=Tweet】縮みがちな晩年を潤いあるものに

○自然に？自生した萩が数株ある。大きく成長して他の木を覆い困る程になっている。庭の除草時に枝を落とそうと思ったら花を付け始めていた。萩は文字が示す通り秋の花である。花を楽しんでからと止めた。そんな折に深夜のラジオで歌手の新井満夫妻が北海道の大沼の森？での田舎暮らしの事を紹介していた。その中で、良寛の和歌に魅かれ詩文を自分なりに訳した歌詞で曲作りをしている話をしていった。70歳から74歳で亡くなるまでの3年3カ月の貞信尼？との萩の花などを詠んだ相聞歌が素晴らしいと云い、良寛の晩年は輝いていたのではと云っていた。萩の枝を落とさないで良かった。萩の花の咲き揃うのを待ちたいと思う。いつも追われる様な農作業が疎まれる。草花を愛でる気持ちの余裕を持ちたいものである。良寛の短歌（*1）が今年の詩吟の教材に入っていたが、良寛が羨ましくなる。縮みがちな晩年を潤いのあるものにしたいものである。

○本屋で“さよならニッポン農業”の題名に魅かれて買った。今まで私が考えていた“農業”に疑念が湧いて来ており、本当のところの日本の農業を知りたいと思っているからある。農業に対して“農業大事”“農業振興こそ第一義”と、少しでも寄与したいとの思いを持っている。私が始めた農的新生活の大きな部分はここにあった。そんな私が、“農業大事”や“自給率アップ”を余りにも多く主張するので私に自戒を促したいとの意図を込めて？元会社の友人が、大嘘だらけの食料自給率の副題の付いた“日本は世界5位の農業大国”を贈ってくれた。この本を読んで少しづつ生まれて来た疑念がさらに大きくなった。こんなことがあり、“さよならニッポン農業”の題名が目にとまった。農地管

理の問題を大きく指摘し、最終章の5章で市民参加型の土地利用への副題のついた日本農業の理想像を熱く論じている。この二冊の本で私の日本農業の理解は変わり深まった様な気がする。浅知恵を恥る。実践のレベルの低さを反省しながらも日本農業に意味ある形で少しでも寄与できればと思う。最後に、この2冊（*2）の購読をお勧めしたい。

*1、良寛の短歌

たをりこし はなのいろかは うすくとも あわれみたまえへ ころもばかりは

*2、「さよならニッポン農業」 著者；神門善久 NHK 出版838円税別、「日本は世界5位の農業大国」 著者；浅川芳裕 講談社700円税別

*腰の治癒はまだなのか？草刈りの農作業が身体にこたえる。悲鳴を挙げるのが早くなった。仲秋の名月と言うが、すすきに団子をお供えして祝いたいものである。

<仲秋の名月とは、旧暦8月の15夜月を言う。今年9月12日である。旧暦の秋は7、8、9月で仲秋は真ん中の秋の意>

*笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】

発行者；Kogure農場・小暮

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.ne.jp

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>